

出雲市立幼稚園の閉園に関する方針

平成24年9月28日

出雲市教育委員会

はじめに	1
I 閉園対象とする幼稚園	2
II 実施にあたっての基本的な進め方	2
1. 地元の意向を尊重	2
2. 地元了解が得られる場合の対応	2
(1) 閉園後の現施設の取扱	2
(2) 保護者負担の軽減	3
(3) 閉園に向けた協議の流れ	3
資料	
表1 幼稚園の規模と学級数の関係	4
表2 学級編制基準	4
表3 幼稚園の園児数・学級数	4
表4 幼稚園児数の推移と推計	5
表5 園児数と学級数の推移と推計	6
表6 規模別幼稚園数の推移と推計	6
表7 園児数別幼稚園数の推移と推計	6
表8 幼稚園施設の建築経過年数	6
表9 43地区と30幼稚園の位置関係	6
表10 幼稚園児の地元就園等の状況	7
表11 県内市町立幼稚園数・園児数・学級数の推移	8
表12 県内市町ごとの市町立幼稚園の設置状況	8
「出雲市立小中学校再編方針」の抜粋	8

はじめに

本市の幼稚園は、合併前の設置をそのまま引き継いでおり、30園（休園1を含む。）あります。規模別の内訳は、極小規模園(3園)、過小規模園(9園)、小規模園(17園)、適正規模園(1園)となっており、ほとんどが小さな規模の園です。

こうしたことから、平成22年8月19日、市長は第2期出雲市教育政策審議会に「小中学校及び幼稚園の適正規模等について」を諮問し、9回の審議を経て、翌年の平成23年2月14日に審議会長から市長に答申が行われました。しかし、幼稚園については、幼保一体化の検討が国において検討されている最中であったことから状況の把握にとどめ、具体の答申はありませんでした。

教育委員会では、幼稚園の現状を踏まえ、今後の「園児数の見通し」、「規模の変化」、「施設整備の費用と市の財政状況」等を精査し、「より効果的で均衡のとれた幼児教育」、「より効率的な幼稚園運営」などの観点から、幼稚園の再編を検討し、平成23年11月に『出雲市学校再編計画(素案)について』を作成して、市議会並びに関係者及び市民から意見を伺ってきました。

小中学校の再編については、市議会や地域・学校関係者から多くの意見をいただきましたが、幼稚園の閉園については、再編計画(素案)に掲げた幼稚園の地域関係者からの意見を除き、全体としては少数でした。

その後、幼稚園については、国が進めて来た「子ども・子育て新システム」による『総合子ども園』構想が取り下げられ、従来の認定子ども園制度の拡充で決着したことにより、幼稚園制度自体に大きな変更が加えられることはなくなり、現行制度が当面続くこととなりました。

以上の経過を踏まえ、教育委員会では、幼児教育の充実を目指すという視点を基本に、検討を重ね、このたび『出雲市立幼稚園の閉園に関する方針』(以下「閉園方針」という。)を策定し、市民のご理解とご協力をいただきながら取り組んでいくこととしました。

I 閉園対象とする幼稚園

集団教育である幼稚園での教育の効果や、幼稚園における“より望ましい幼児教育環境”については、教育委員会が平成24年9月に策定した『出雲市立小中学校再編方針』中の「Ⅲ 学校再編をめぐる背景」及び「Ⅴ 学校再編の目的」で示した小学校の場合とほぼ同様な考え方ができます。

したがって、幼稚園についても学級数を基準とすることが適当であると判断し、3歳児・4歳児・5歳児の3学年混合学級の1学級となっている園児数9人以下の幼稚園については、路線バスの利用又はスクールバス等を新たに運行することにより、近隣の幼稚園への通園が可能であることを前提に、閉園の対象とします。

平成24年度以降、学級数1以下の状態が2年続いたとき、関係地元と閉園に関して協議し、地元了解が得られた場合、その翌年度からの園児募集を停止し、在園児すべてが卒園した段階で閉園を実施します。

なお、平成24年5月1日現在で閉園対象となる1学級9人以下の幼稚園は、乙立幼稚園(4人1学級)、鶉鷺幼稚園(休園中)、日御碕幼稚園(2人1学級)の3園で、いずれもそれぞれの小学校舎内に併設されているものです。

II 実施にあたっての基本的な進め方

1. 地元の意向を尊重

幼稚園の閉園は、地域にとってきわめて重要な問題であることから、地元と時間をかけ十分に議論・協議し、地元の了解が得られる場合に実施に移していきます。

その際、教育委員会が協議する地元については、閉園対象となる幼稚園のある地区の自治協会、保護者組織、PTA、後援会などの関係者が想定されますが、教育委員会が示す閉園方針に対する地元の意思表示については、地元関係者により調整された組織の代表者から回答をいただくこととし、その構成等については地元の考えに委ねることとします。

2. 地元了解が得られる場合の対応

閉園について地元の了解が得られる場合、次のとおり対応します。

(1) 閉園後の現施設の取扱

建築後相当年数が経過している施設は、取り壊し、更地化します。他用途に転換できる施設は、地元と協議します。また、跡地の取扱についても、地

元と協議します。

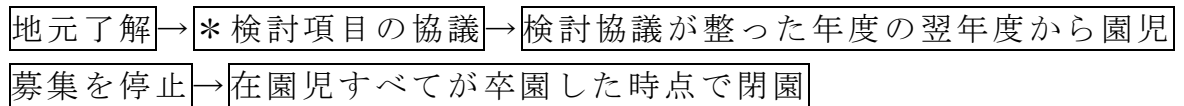
なお、小学校に併設されている幼稚園施設については、小学校の再編方針と密接に係わることから小学校施設の取扱に合わせて協議します。

(2) 保護者負担の軽減

遠距離通園の場合は、バス通園を基本とし、路線バスが利用できる場合はバス代を補助し、路線バスがない場合はスクールバスを運行します。

(3) 閉園に向けた協議の流れ

地元の基本的な了解が得られる場合、以下の手順で協議します。



* 検討項目(例示)

跡地・旧施設の取扱、バス運行計画、預かり保育の取扱、PTA・教育後援会の取扱など

以上

資料

表 1 幼稚園の規模と学級数の関係

規模	極小規模園	過小規模園	小規模園	適正規模園	大規模園
学級数	0～1	2	3～5	6～9	10～

表 2 学級編制基準

学級編制	年齢	1学級あたりの園児数の上限
単式学級	3歳児	25人
	4歳児	35人
	5歳児	35人
混合学級	3・4・5歳児	9人
	4・5歳児	25人

表 3 幼稚園の園児数・学級数 (平成 24 年 5 月 1 日現在)

幼稚園名	園児数				学級数					定数上の	
	3歳	4歳	5歳	計	3歳	4歳	5歳	混合	計	園児数	学級数
今市	25	35	32	92	1	1	1	0	3	165	5
大津	34	23	23	80	2	1	1	0	4	165	5
上津	5	3	4	12	1	0	0	1	2	70	2
塩治	24	38	40	102	1	2	2	0	5	235	7
古志	3	8	8	19	1	0	0	1	2	95	3
高松	26	24	32	82	2	1	1	0	4	165	5
長浜	2	10	7	19	1	0	0	1	2	95	3
四絡	38	44	53	135	2	2	2	0	6	235	7
高浜	12	11	11	34	1	0	0	1	2	95	3
川跡	33	30	38	101	2	1	2	0	5	165	5
鳶巣	7	10	9	26	1	0	0	1	2	70	2
朝山	4	16	12	32	1	1	1	0	3	95	3
乙立	2	0	2	4	0	0	0	1	1	35	1
稗原	8	8	12	28	1	0	0	1	2	70	2
神門	19	23	32	74	1	1	1	0	3	165	5
神西	12	11	12	35	1	0	0	1	2	95	3
中央	25	25	34	84	1	1	1	0	3	95	3
平田	20	38	41	99	1	2	2	0	5	270	8
東	12	26	27	65	1	1	1	0	3	165	5
多伎	8	16	16	40	1	1	1	0	3	95	3
湖陵	11	10	22	43	1	1	1	0	3	95	3
大社	13	13	20	46	1	1	1	0	3	200	6
荒木	20	17	23	60	1	1	1	0	3	200	6
遙堪	6	8	10	24	1	0	0	1	2	95	3
日御碕	0	0	2	2	0	0	1	0	1	70	2
鶺鴒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	1
荘原	23	22	31	76	1	1	1	0	3	95	3
西野	21	32	35	88	1	1	2	0	4	190	6
中部	22	19	22	63	1	1	1	0	3	95	3
出東	5	9	10	24	1	0	0	1	2	70	2
計	440	529	620	1,589	31	21	24	10	86	3,785	115

表4 幼稚園児数の推移と推計

幼稚園名/年度	H元	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	
今市	園児数	85	84	79	82	75	68	77	94	92	78	66	65	71	71	70	69	69	68
	学級数	3	3	3	3	3	3	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
大津	園児数	170	120	108	86	94	78	74	66	80	86	90	81	78	78	80	81	81	81
	学級数	6	5	5	4	5	4	4	3	4	4	4	3	4	4	4	4	4	4
上津	園児数	28	25	24	16	15	10	6	8	12	11	11	8	8	7	7	6	6	6
	学級数	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
塩冶	園児数	234	158	156	167	146	127	108	106	102	99	103	114	112	106	106	106	105	105
	学級数	7	6	6	6	6	6	5	5	5	5	5	6	5	4	5	5	4	4
古志	園児数	56	21	26	32	31	29	25	22	19	16	16	20	22	21	21	21	21	21
	学級数	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
高松	園児数	111	114	110	104	105	97	97	82	82	76	80	81	82	82	82	82	81	81
	学級数	4	5	5	5	5	4	4	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
長浜	園児数	26	26	36	32	32	31	26	26	19	18	16	21	22	20	19	17	16	15
	学級数	1	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
四絡	園児数	174	157	176	159	160	153	150	136	135	132	133	141	137	139	140	142	143	145
	学級数	6	6	7	6	6	6	6	6	6	7	6	6	6	6	6	6	6	6
高浜	園児数	54	46	54	64	57	46	36	31	34	34	31	29	28	30	29	28	27	27
	学級数	2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
川跡	園児数	103	103	105	95	88	89	106	95	101	94	98	102	107	110	111	113	115	117
	学級数	3	5	5	5	4	5	5	5	5	4	4	4	5	6	6	6	6	6
鳶巣	園児数	50	18	23	23	27	29	29	27	26	27	24	27	27	30	30	30	30	30
	学級数	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
朝山	園児数	43	46	32	27	30	36	34	29	32	25	13	16	17	19	17	16	15	15
	学級数	2	3	3	2	2	3	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
乙立	園児数	11	14	15	16	12	11	8	5	4	4	6	5	5	4	4	3	3	3
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
稗原	園児数	59	22	19	19	23	22	21	27	28	22	21	21	23	24	23	22	21	21
	学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
神門	園児数	112	98	97	96	75	70	66	68	74	60	57	58	59	58	57	57	57	56
	学級数	4	5	4	4	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
神西	園児数	69	56	53	48	42	39	40	36	35	34	36	35	34	31	30	30	30	30
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
中央	園児数		73	84	82	78	84	88	85	84	78	84	85	84	84	85	86	86	86
	学級数		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
平田	園児数	159	194	190	188	152	128	111	101	99	83	68	71	68	66	61	57	52	49
	学級数	5	7	7	8	6	6	5	5	5	4	3	3	3	3	3	3	3	3
東	園児数	110	97	91	97	89	99	85	81	65	63	60	69	64	61	58	56	53	51
	学級数	4	4	4	5	4	5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
多伎	園児数	101	43	48	40	45	45	48	49	40	40	30	33	29	34	33	31	30	29
	学級数	6	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2
湖陵	園児数	111	65	69	57	55	49	51	54	43	34	38	40	39	37	34	32	30	29
	学級数	4	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	3	3	2	2	2	2	2
大社	園児数	104	65	56	55	51	41	41	40	46	36	37	35	36	32	31	30	29	28
	学級数	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2
荒木	園児数	101	75	63	78	79	74	74	66	60	53	53	51	53	55	56	57	57	58
	学級数	4	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
遙堪	園児数	60	42	38	37	29	22	21	20	24	21	21	22	21	19	17	16	15	14
	学級数	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
日御碕	園児数	22	9	5	4	4	3	3	3	2	2	4	6	5	5	5	6	6	5
	学級数	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
鶴鷺	園児数	6	2	3	3	2	1	0	0	0	1	1	2	2	3	3	3	3	3
	学級数	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
荘原	園児数	65	81	87	83	76	65	61	66	76	63	64	61	62	57	55	54	53	52
	学級数	2	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
西野	園児数	72	116	131	128	116	112	101	100	88	76	71	74	75	72	71	70	69	68
	学級数	3	5	6	6	5	5	5	5	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3
中部	園児数	38	56	80	68	61	61	57	56	63	54	53	47	51	50	51	51	51	51
	学級数	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
出東	園児数	41	32	31	32	25	27	20	12	24	19	16	17	18	17	16	15	15	15
	学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計	園児数	2,375	2,058	2,089	2,018	1,874	1,746	1,664	1,591	1,589	1,439	1,401	1,438	1,439	1,423	1,402	1,388	1,369	1,359
	学級数	94	98	100	101	93	94	89	85	86	82	80	79	80	79	80	80	79	79

園児数の推計方法

- 1 中央幼稚園以外の園：【出生数の推計値(※1)×就園率(※2)、(※1)過去10年間の出生数から近似値を算出、(※2)過去5年間の就園率の平均値】
 - 2 中央幼稚園：【過去5年間の園児数の平均値】
- ※H元、H17～H24は、5月1日時点の実数。H元の多伎は、田儀、小田及び久村の合計値。H元の湖陵は、南及び西の合計値。H25～H33は、推計値。

表5 園児数と学級数の推移と推計

年度	H元	H17	H24	H29	H33
園児数	2,375	2,058	1,589	1,423	1,359
学級数	94	98	86	79	79
1学級あたりの園児数	25	21	18	18	17

表6 規模別幼稚園数の推移と推計 ()内は学級数

年度	極小規模園 (1)	過小規模園 (2)	小規模園 (3~5)	適正規模園 (6~9)	大規模園 (10~)	計
H17	5園	5園	17園	3園	0園	30園
H24	3園	9園	17園	1園	0園	30園
H29	4園	12園	12園	2園	0園	30園
H33	4園	12園	12園	2園	0園	30園

表7 園児数別幼稚園数の推移と推計

年度	0~9人	10~29人	30~49人	50~69人	70~99人	100人~	計
H17	2園	6園	5園	4園	6園	7園	30園
H24	3園	7園	6園	3園	8園	3園	30園
H29	4園	6園	6園	6園	5園	3園	30園
H33	4園	10園	3園	7園	3園	3園	30園

表8 幼稚園施設の建築経過年数(平成24年5月1日現在)

建築経過年(建築年)	園数	園名
1~9年(H24~H15)	10	荘原、川跡、古志、鳶巣、東、長浜、湖陵、神西、多伎、西野
10~19年(H14~H5)	5	四絡、神門、朝山、上津、大津
20~29年(H4~S58)	4	稗原、中央、乙立、日御碕
30~39年(S57~S48)	7	塩治、大社、遙堪、中部、高浜、荒木、高松
40~49年(S47~S38)	3	平田、今市、出東
50~59年(S37~S28)	1	鵜鷺
計	30	(30~59年(S57~S28)の計:11園)

(注)乙立、日御碕、鵜鷺の各幼稚園舎は、それぞれの小学校と併設されています。

表9 43地区と30幼稚園の位置関係

地区	幼稚園	地区	幼稚園	地区	幼稚園	地区	幼稚園
今市	今市・中央	朝山	朝山	檜山		遙堪	遙堪
大津	大津	乙立	乙立	東	東	日御碕	日御碕
塩治	塩治	神門	神門	北浜		鵜鷺	鵜鷺
古志	古志	神西	神西	佐香		荘原	荘原
高松	高松	長浜	長浜	伊野		阿宮	
四絡	四絡	平田	平田	須佐		出西	
高浜	高浜	灘分		窪田		伊波野	西野
川跡	川跡	国富		多伎	多伎	直江	中部
鳶巣	鳶巣	西田		湖陵	湖陵	久木	
上津	上津	鰐淵		大社	大社	出東	出東
稗原	稗原	久多美		荒木	荒木	43地区	30園

表 1 0 幼稚園児の地元就園等の状況 (平成 2 4 年 5 月 1 日現在)

園名	地元の 3, 4, 5 歳児の人口 (人) : a	在園児数 (人) : b	在園児数の内の地元園児数 (人) : c	地元就園率 (%) : c/a
今市	188	92	63	34
大津	264	80	71	27
上津	28	12	12	43
塩冶	424	102	99	23
古志	54	19	15	28
高松	317	82	80	25
長浜	126	19	18	14
四絡	387	135	121	31
高浜	107	34	30	28
川跡	350	101	99	28
鳶巣	50	26	25	50
朝山	50	32	29	58
乙立	13	4	4	31
稗原	45	28	28	62
神門	235	74	73	31
神西	96	35	32	33
平田	473	99	97	21
東	105	65	58	55
多伎	85	40	40	47
湖陵	131	43	40	31
大社	119	46	45	38
荒木	192	60	58	30
遙堪	59	24	22	37
日御碕	7	2	2	29
鶉鷺	3	0	0	0
荘原	200	76	74	37
西野	314	88	84	27
中部	160	63	59	37
出東	99	24	24	24
合計	4,681	1,505	1,402	30

(注1)小中学校は通学校区を指定していますが、幼稚園は園区を設定していません。したがって、この表中の「地元の 3, 4, 5 歳児の人口」は、幼稚園の位置を考慮し、下の表の地区の人口を便宜上算入したものです。

園名	地区名
平田	平田、灘分、国富、西田、鰐淵、久多美、北浜、佐香
東	檜山、東、伊野
西野	阿宮、出西、伊波野
中部	直江、久木
上記以外の園	園名と同じ地区

(注2)中央幼稚園は、幼保一元化施設であるため除きました。

(注3)鶉鷺幼稚園は、休園中です。

表 1 1 県内市町立幼稚園数・園児数・学級数の推移（各年度 5 月 1 日現在）

年度	園数		園児数		学級数	
	県全体	出雲市	県全体	出雲市	県全体	出雲市
H 元	109	31	8,162	2,375	329	94
H6	110	31	6,526	2,070	290	83
H11	105	32	6,050	2,019	289	89
H16	105	31	5,655	2,125	292	95
H21	101	30	4,408	1,746	271	94
H24	93	30	3,962	1,589	247	86

表 1 2 県内市町ごとの市町立幼稚園の設置状況（平成 2 4 年 5 月 1 日現在）

市町名	園数	休園中 の園数	実質 園数	園児数	学級数	園児数÷ 実質園数	園児数÷ 学級数
松江市	29	0	29	1,522	89	52	17
安来市	6	0	6	187	14	31	13
出雲市	30	1	29	1,589	86	55	18
雲南市	13	0	13	347	31	27	11
奥出雲町	6	2	4	30	5	8	6
大田市	4	1	3	111	7	37	16
江津市	1	0	1	44	2	44	22
浜田市	4	0	4	132	13	33	10
計	93	4	89	3,962	247	45	16

『出雲市立小中学校再編方針』の抜粋

Ⅲ 学校再編をめぐる背景

1. 少子化と小規模校化の進行

出雲市の児童生徒数は、第1次ベビーブーム(昭和22年～25年)の影響があった昭和35年度(1960)には、児童25,071人、生徒12,099人の計37,170人でした。それから約50年後の平成24年度(2012)には、児童9,880人、生徒4,964人の計14,844人となり、約60%も減少し、少子化の影響が強く表れています。また、今後10年間の推計では児童生徒数はさらに減少し、平成34年度(2022)には1,113人(約8%)減少し、13,731人となる見込みです。

この児童生徒推計値を現在の41の小学校及び15の中学校にあてはめれば、10年後の平成34年度(2022)には小規模化が進み、小学校での適正規模校割合は15%(41校中6校)に低下する一方、過小規模校・小規模校の割合は71%(41校中29校)に増加します。

なお、中学校については、合併前の旧市町において再編が進められてきたこともあり、規模別の学校数に大きな変動は見られません。

2. 小規模校の利点と課題

小規模校の最も大きな利点は、児童生徒の人数が少ないため、児童生徒一人ひとりに教職員の目が行き届きやすく、きめ細やかな指導ができることです。

一方、少人数で1学級しかないため、友達関係が固定化しがちであり、いったん関係がこじれると修復に時間がかかったり、暗黙の序列や固定的見方ができやす

かったりすることなどが指摘されています。また、教科担任教諭、養護教諭や事務職員などの教職員配置が制約されるなど、学校運営や生徒指導に課題が生じています。特に、5学級以下の過小規模校では、複式学級編制が行われており、「学年別指導(いわゆる「わたり」)」や「同単元指導(A年度・B年度方式)」の授業は児童の負担が大きいといわれています。

学校教育は集団教育の利点を生かしながら教科学習をはじめとする教育課程を進めていきます。子どもたちがあらゆる集団生活の場で適応でき、たくましく心豊かに成長していく力を身につけていくことがより重要です。音楽会、学習発表会、運動会、児童・生徒会活動、部活動などではより規模の大きな集団によって成果や効果が発揮されるといわれています。

こうした課題を克服するため、小規模校では、学年の枠を超えたタテ割り班での活動や近隣の学校と合同で修学旅行・校外活動などを実施するなどの工夫を重ねていますが、しかしこれとても毎日できるものではなくおのずと限界もあります。

こうしたことから、全国的にも、県内的にも過小規模校を中心に再編が進められています。

V 学校再編の目的

本方針では、10年後を見据え、適正規模校化を図り、子どもたちに、より望ましい教育環境を整備することを目的とし、再編により目指す学校像及び期待される教育上の効果を以下のとおりとします。

1. 再編により目指す学校像

- ① 1学年2学級以上のクラス替えができ、もしくはクラス替えができない1学年1学級の場合でも、1学年20人程度以上の学級となり、活力ある学習活動や集団活動ができる学校
- ② 適正規模校もしくは適正規模校に近づくことにより、教職員の適切な配置が行われ、学習指導や生徒指導等が充実した学校
- ③ 安全安心な施設であることを基本に、機能的で環境面に優れ、充実した設備の整った快適な学校

2. 再編により期待される教育上の効果

- ① 児童に学習上の負担がかかる特別な教育課程を編成する複式学級編制が解消されます。
- ② 適正規模校もしくは適正規模校に近づくことにより、全体の児童生徒・教職員数が増え、児童生徒間の出会いや交流の機会が多くなり、多様な経験や考えを持つことができ、コミュニケーション能力が育成されるとともに、学習活動や学校集団行事などが活性化します。
- ③ 中学校においては、教科専任教諭の配置が充実し、また部活動の選択肢が増えます。
- ④ 限られた予算にあっても、全体の学校施設が減少することにより施設整備などに集中的な投資が可能となり、教育環境の充実が図られます。

出雲市立幼稚園の閉園に関する方針

平成 24 年 9 月 28 日

出雲市教育委員会

所管：出雲市教育委員会教育部教育政策課

住所 〒693-8530 島根県出雲市今市町 70 番地

Tel 0853-21-6874、Fax 0853-21-6192

電子メール kyouiku-seisaku@city.izumo.shimane.jp